

# 魚病診断結果

田中真二・小畑晴美・宮本敦史・井上美佐・栗山 功

## 目的

県内の養殖魚の魚病発生状況を把握するとともに、その対策指導を行い魚病被害の軽減をはかる。

## 方法

平成13年4月～平成14年3月に水産研究部、同尾鷲水産研究室および同鈴鹿水産研究室に診断依頼のあった病魚について魚病診断を行った。

## 結果および考察

診断結果を表1～表5に示した。マダイでは近年の傾向と同様にエドワジエラ症とビバギナ症が多かった。また冬季の診断件数が例年より多く、この原因として冬季の水温が記録的に低かったことによる生理障害の影響が考えられた。マハタとクエでは秋季にウイルス性神経壊死症が多発した。マアジではイリドウイルス病の発生が県内で初めて確認された。

表1 マダイの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
イトウイルス病	0			6	15	12	9	1							43
	1						1								1
リンシス病	0		1												1
エドワジエラ症	0		4	1											5
滑走細菌症	0										2				2
ビバギナ症	0	1	1								1	2			5
エドワジエラ症	0				1	5	7								13
	1		1	2	4	11									18
バスラ症	0				1										1
列アトビア症	0							1							1
トリコサ症	0	1	2	1	2							2	2		10
	1												2		2
スクーサ症	0			1								1			2
白点病	0						1								1
	1							1							1
ビバギナ症	0	3	2	12	9						3	4			33
	1	1									1	1			3
ラロデイスカス症	0		2												2
ロシコム症	2										1				1
アバ性白血病	0									1	2				3
体表スル・ビラン	0	1									1				2
	1											1			1
削瘦	1					1	2								3
輸送障害	0	1	1												2
	1						1								1
不明	0	1	3	2	1	3	1	2							13
	1						1	1							2
計		6	11	22	22	22	23	34	2	3	5	8	14		172

表2 プリの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
イトウイルス病	0						8	2							10
ウイルス性腹水症	0		2	1											3
類結節症	0				1			1							2
リン球菌症	0			2	2		2	4	2	2					14
	1				2	1	2								5
カサア症	1								1						1
細菌性溶血性黄疸	1								1						1
白点病	0								1						1
ペテラ症	0				1	4	1	3		1					10
ペテラ症	0					1									1
血管内吸虫症	0							1							1
緑肝	0					1									1
体表スル・ビラン	1													1	1
不明	0							1					1	1	3
計			0	2	3	6	7	15	12	3	3	0	1	2	54

表3 ヒラメの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
イトウイルス病	0							1	1						2
リン球菌症	0							2							2
	1								1						1
エドワジエラ症	0						1	1	2	3	1		2		10
スクーサ症	0											2	1		3
	1								1						1
白点病	1							1							1
ペテラ症	3							1							1
不明	0	1							1	2		1			5
計		1	0	0	0	2	5	6	3	3	0	5	1		26

表4 トラフグの診断結果

病名	年齢	月別診断件数												計	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
やせ病(腸管原虫症)	0								1						1
	1								1						1
トリコサ症	0				2										2
	1			1											1
白点病	1							1							1
ペテラ症	0	1	1		2			1							5
	1			1	1		1								3
	2				1										1
不明	1				1										1
計		1	1	2	6	1	1	3	1	0	0	0	0	0	16

表5 その他の魚種の診断結果

(魚種)	病名	月別診断件数												計
		年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
<b>(スズキ)</b>														
イトウイルス病		0							1					1
シエトモス症		0	1											1
脳粘液胞子虫症		1				1								1
キョウダケ病		0	1				1	1						3
不明		2				1							1	2
不明		0	1	1	1								1	4
		1		1										1
<b>(マハタ)</b>														
ウイルス性神経壊死症		0					1	1	7					9
		3						1						1
リボウイルス病		1				1								1
トコジラ症		0											1	1
不明		0											1	1
<b>(クエ)</b>														
ウイルス性神経壊死症		0					1	1						2
ハネコジラ症		3											1	1
<b>(タマカイ)</b>														
滑走細菌症		1											1	1
カサガサ症		1											1	1
<b>(カンパチ)</b>														
レンサ球菌症		0					1							1
ゼウガサガサ症		1											1	1
血管内吸虫症		1					1						1	2
<b>(マアジ)</b>														
イトウイルス病		0							1					1
レンサ球菌症		0				1							1	2
不明		0											1	1
<b>(シマアジ)</b>														
イトウイルス病		0					1							1
		1					1							1
ミコバケリ症		1						1						1
トコジラ症		1	1											1
不明		0											1	1
<b>(イサキ)</b>														
白点病		0	1											1
不明		1											1	1
<b>(イシガキダイ)</b>														
イトウイルス病		0					1							1
<b>(クロマグロ)</b>														
不明		0					1	1						2
<b>(カサゴ)</b>														
脂肪過多		2					1							1
不明		1					1							1
		2					1							1
<b>(ヨシエビ)</b>														
真菌症		0					1							1
<b>(マガキ)</b>														
変色		0	1	3	1									5
<b>(アワビ)</b>														
不明		0								1				1
<b>(ニジマス)</b>														
クサカサ症		1	1											1
計			5	3	6	4	8	7	12	1	1	2	5	60

表6 各病原菌の薬剤感受性

レンサ球菌症 原因菌 (ブリ)

薬剤名	菌株数				計
	-	+	++	+++	
塩酸サリドマイシン	4	9	6	5	24
フロルフェニコール	0	0	0	25	25
チアンフェニコール	0	0	5	21	26
エリスロマイシン	20	0	0	6	26
リンコマイシン	20	1	0	0	21
アンピシリン	0	6	2	18	26

エドワジエラ症 原因菌 (マダイ)

薬剤名	菌株数				計
	-	+	++	+++	
塩酸サリドマイシン	1	0	0	28	29
フロルフェニコール	0	0	0	29	29
チアンフェニコール	0	0	0	29	29
アンピシリン	23	5	1	0	29
オキシリン酸	0	0	4	25	29

エドワジエラ症 原因菌 (ヒラメ)

薬剤名	菌株数				計
	-	+	++	+++	
塩酸サリドマイシン	3	0	0	8	11
フロルフェニコール	0	0	0	10	10
チアンフェニコール	0	0	1	9	10
アンピシリン	8	0	1	1	10
ニコルチン酸ナトリウム	0	0	0	2	2
オキシリン酸	0	1	0	9	10